

障害者対策総合研究開発事業 事後評価(令和5年度終了課題)について

「障害者対策総合研究開発事業」における令和5年度終了課題の事後評価結果を公表します。
詳細につきましては、以下の各項目をご覧ください。

1 課題評価の趣旨

■事後評価

研究開発課題等について、研究開発の実施状況、研究開発成果等を明らかにし、今後の研究開発成果等の展開及び事業等の運営の改善に資することを目的として実施します。

2 課題評価委員会 開催日

- (1) 身体・知的等障害分野 : 令和6年7月2日
- (2) 感覚器障害分野 : 令和6年7月9日
- (3) 精神障害分野 : 令和6年7月8日

3 評価委員一覧 (◎委員長)(敬称略)

(1)身体・知的等障害分野

氏名	所属 役職
今橋 久美子	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 室長
大串 幹	兵庫県立リハビリテーション中央病院 院長
◎ 神宮司 誠也	特定医療法人起生会 大原病院 副院長
田中 栄	東京大学 大学院医学系研究科 教授
本橋 裕子	国立精神・神経医療研究センター病院 医長
山内 繁	特定非営利活動法人 支援技術開発機構 理事長

(2)感覚器障害分野

氏名	所属 役職
◎ 伊藤 壽一	京都大学 名誉教授
伊福部 達	東京大学 先端科学技術研究センター 研究顧問
小林 一女	昭和大学 特任教授
永井 春彦	北海道勤労者医療協会 勤医協札幌病院 眼科副科長
福島 邦博	医療法人さくら会 早島クリニック 理事長
村上 晶	順天堂大学 大学院医学研究科 特任教授

(3)精神障害分野

氏名	所属 役職
石井 良平	大阪公立大学 大学院リハビリテーション学研究科 教授
池淵 恵美	医療法人財団 神経科土田病院
大野 裕	一般社団法人 認知行動療法研修開発センター 理事長
尾島 俊之	浜松医科大学 医学部 教授
加藤 忠史	順天堂大学 医学部 主任教授
◎ 武田 雅俊	大阪河崎リハビリテーション大学 学長
中里 道子	国際医療福祉大学 医学部 主任教授
長谷川 花	一般社団法人 静岡赤十字病院 部長
和田 清	昭和大学 客員教授

4 評価項目

- ①研究開発達成状況
- ②研究開発成果
- ③実施体制
- ④今後の見通し
- ⑤事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目
- ⑥総合評価

※AMED が定める 10 段階評価により、①～⑤を勘案しつつこれらと別に評点を付し、総合評価をする。

5 評価対象課題

(1) 身体・知的等障害分野: 2課題

研究開発課題名	疑似運動刺激を利用して重度肢体不自由児に生じる二次障害を最小化するリハビリテーションのシステム構築と機器開発
代表機関・役職	社会福祉法人日本肢体不自由児協会 心身障害児総合医療療育センター・センター長
研究開発代表者	小崎 慶介

<評価>

重症障害児(者)に対する新規リハビリテーション法開発に挑戦した意義は大きいと言えます。動物実験や安全性試験、機器開発については、ほぼ計画通りに達成できています。一方で、今回の研究では対象者や検証内容も限定的であるため、運動による他の効果、それぞれについての実証を継続する必要があります。

研究開発課題名	認知リハビリテーションのための脳機能調節技術の開発
代表機関・役職	国立障害者リハビリテーションセンター研究所・主任研究官
研究開発代表者	中村 仁洋

<評価>

脳の器質性損傷に伴う認知機能障害の対策としてニューロフィードバックシステムを構築する内容は新規性が高く、医療分野への進展、あるいは新技術の創出が期待できる研究です。ワーキングメモリー増強に関する研究において fMRI タッピングの被験者数確保に加え、論文発表、アウトリーチ活動が今後の課題です。臨床応用のために今後実際の患者に対する臨床研究が期待されます。

(2) 感覚器障害分野: 3課題

研究開発課題名	当事者ニーズに基づいた聴覚情報処理障害診断と支援の手引きの開発
代表機関・役職	公立大学法人大阪 大阪公立大学・准教授
研究開発代表者	阪本 浩一

< 評 価 >

APD の特性を定義し、検査結果に基づきその分類を行い、当事者のニーズに合わせた支援方式の重要性を示したことは大きな成果であると言えます。本研究で示された指針は、障害児・者への医療、福祉に資する技術開発につながる成果です。また、学術誌への発表並びに学会での講演など科学技術コミュニケーション活動(アウトリーチ活動)を積極的に行っている点も評価できます。

研究開発課題名	喉頭摘出者における音声変換技術を用いた自己音声の再獲得と発声補助機器の開発
代表機関・役職	国立大学法人東海国立大学法人 名古屋大学・講師
研究開発代表者	西尾 直樹

< 評 価 >

喉頭摘出前の自己音声データを、手術後に音声変換技術を用いて代替発声法と組み合わせることにより、手術により喪失した自己の音声の再獲得する本研究の目的は達成されており、現実的に社会実装を見通すことができる優れた成果であると言えます。さらに海外への展開と、将来展望も示したことは評価できます。今後はより現実的な機器としての実用化に向けた取り組みが期待されます。

研究開発課題名	COVID-19 流行下における聴覚障害者の ICT 利活用の実態調査及びその成功例をもとにした情報提供資材の開発
代表機関・役職	国立障害者リハビリテーションセンター研究所・室長
研究開発代表者	幕内 充

< 評 価 >

聴覚障害者と支援者を対象に、COVID-19 流行下における ICT 利活用の困難さと問題点の確認はなされましたが、開発した情報提供資材の有用性の検証や普及のための道筋が示されていません。開発した情報提供資材を基礎に、それを普及させ有用なフィードバックを得ることができれば、聴覚障害者に適したオンライン手法を開発する道が拓かれると考えられます。また、ポストコロナの環境下で従前のコミュニケーション手段への回帰もありうる中での本研究成果の位置付けを明確化することも望まれます。

(3)精神障害分野:8課題

研究開発課題名	自閉スペクトラム症(ASD)当事者と家族が共に学ぶ自立促進プログラムの開発と包括的支援システムの構築
代表機関・役職	学校法人昭和大学 発達障害医療研究所・精神保健福祉士
研究開発代表者	五十嵐 美紀

<評 価>

研究計画は概ね達成されています。「親なき後」を想定して自閉スペクトラム症の当事者や家族に対し、具体的な調査と支援システムを構築したことは評価できます。今後は、地域支援の実装や研究成果のアウトリーチが期待されます。

研究開発課題名	「双極性障害うつ病に対する Accelerated intermittent Theta Burst Stimulation の有用性の検討:二重盲検ランダム化シヤム比較試験」の Protokol 開発
代表機関・役職	学校法人藤田学園 藤田医科大学・准教授
研究開発代表者	岸 太郎

<評 価>

研究計画通りの成果が得られています。文献レビューによりの確に Protokol を作成した点は評価できます。今後の研究成果が期待されます。

研究開発課題名	成人期の注意欠如・多動症に対する個人認知行動療法の 統一プログラムの開発と無作為化比較試験による有効性の検討
代表機関・役職	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター・センター長
研究開発代表者	久我 弘典

<評 価>

研究計画は概ね達成されています。今後は対象者数を増やして統一プログラムの RCT による効果検証等が期待されます。

研究開発課題名	適応障害(適応反応症)に対する新規心理社会的治療法の確立:反芻焦点化認知行動療法の研究 Protokol 開発
代表機関・役職	学校法人聖マリアンナ医科大学・教授
研究開発代表者	中川 敦夫

<評 価>

研究計画通りの成果が得られています。有病率の高い適応障害に対する画期的な治療法の研究開発であり成果が期待されます。

研究開発課題名	精神疾患レジストリの利活用による治療効果、転帰予測、新たな層別化に関する研究
代表機関・役職	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・理事長
研究開発代表者	中込 和幸

< 評 価 >

研究計画は概ね達成されています。レジストリ研究を行う上で必要なデータ集約技術の開発が行われ、利活用基盤が構築されました。さらに、多くの研究機関が参加し、各々の機関が有する特異なデータを用いた研究も複数報告されました。今後はレジストリ全体の登録数とともに、全体で共有・解析できるデータを増やすことで、レジストリに期待される成果の発信が望まれます。また、レジストリシステムの成果については、短期、中期、長期に分けて明確化することも求められます。

研究開発課題名	オンラインによるメンタルヘルスサポートシステムに関する研究開発
代表機関・役職	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・理事長
研究開発代表者	中込 和幸

< 評 価 >

研究計画は概ね達成されています。1年間という短い研究期間にも関わらず、アクセシビリティやオンライン相談の質向上に関する研究、チャットボットの効果予測因子に関する研究を着実に実施している点は評価できます。今後は、実装に向けて、アクセスが途切れてしまう者への対応など、克服すべき課題への対処が求められます。また、地域を限定したフィールドトライアルも計画されることが望まれます。

研究開発課題名	ゲーム障害における視聴覚刺激による嗜癖行動悪化のメカニズム：アルコール依存症との比較を通じた検証
代表機関・役職	国立大学法人東京医科歯科大学・講師
研究開発代表者	藤野 純也

< 評 価 >

研究計画は達成されています。ゲーム障害における脳内ネットワークの特徴に関する知見が得られ、病態解明に資する研究成果である点は高く評価できます。本成果は将来的には、治療介入の効果を定量的に評価する指標としても応用できる可能性があります。また、学術雑誌への発表並びに学会での発表など科学技術コミュニケーション活動(アウトリーチ活動)も十分に図られています。今後は治療法の開発に向けて、さらなる研究開発が期待されます。

研究開発課題名	【若手枠】 統合失調症者に対するタブレットデバイスを用いたハイブリッド型認知機能リハビリテーションの効果検討に関するプロトコール開発
代表機関・役職	公立大学法人奈良県立医科大学・助教
研究開発代表者	盛本 翼

＜評 価＞

研究計画はほぼ達成されています。今後、作成したプロトコルに基づく研究開発を行うことが望まれます。また、専門学術雑誌への発表並びに学会での講演など科学技術コミュニケーション活動(アウトリーチ活動)も期待されます。

(以上)